836
209
3

茅草年録

堤蟻叢書

十四

国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

堤蟻叢書

諸家獻議

十四

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

獻議日錄

水府老公
大小御目付
肥前侯
加州侯
越前侯
薩摩侯
仙臺侯
熊本侯
長州侯
附徳山

大正
9. 5. 27
購求

高野藏書

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

府中
清末

長崎奉行手附三人
仙臺之藩
大槻平治
葉名蕨
御目付四人
仙臺藩
鹽谷甲藏
水郎為
芸州藩
河田八十郎
千葉周作

水府老公御密書　嘉永六癸丑六月米舶事件の時

御外封之御書附

御別紙一昨八日當出之へ注ぐ

拙閣且又急き昨晩腐眼之御

急ぎ下書之御

又　西城

第二日目

右御封

福山侯爵へ

御名

海防要存

一 和戰二字古今之名 廟算一定於此之勢
と為る

李文和戰ニ利害戰を主と致し一天下の士豪ニ仮令一旦
敗をとれ逐ニ其終ニ逐ひ退け和を主と致し以て
常ニ平穏ニ治ニ天下ニ人ニ大ニ接ニ後ニ滅亡ニ至
ル者深ク歴史ニ上ニ明記ニ古今儀者ニ確論ニ等
多而已不及中ノ淳秀ノ試ニ大勢を論ニ和ニ於テ
もる所ニ十ケ條ニ如
神國ニ幅員廣大ニ人民ニ衆ニ軍艦ニ外ニ
神功皇后三韓ニ征伐中古弘安ニ蒙古ニ征伐文禄ニ
朝鮮征伐慶長寛永ニ切支丹ノ禁絶ホト明ニ武威
海外ニ振ヒ居ル所ニ非ル事ニアメリカ
内ニ制禁ヲ心ル所ニ浦賀ヘ参入和睦ヲ
推ス所ヲ主ル刻日ニ〈ニ宮殿ヲ
測量ニ〈ニ驕傲無礼ニ始末ニ語ル所ニ開港
ニ至ル〈ニ城下ニ盟ヒ至ニ
ヲ和ニ大城程近ニ内海ヘ参ル我ヲ劫ニ我ヲ
妥賊ニ近ク至ル第一ノ
ホ、憚ル御國ニ於テ

一ヶ条ヽト切支丹宗ヽ儀ハ 御制禁ニ候ニ付 其
元ヽ来ヽ之 高札建並ニ如 吏ヲ
以ヽ御吟味可 申候ヽ況アメリカヽ
儀ハ 御制禁ニ之 自然ト 吾宗門再興
祖宗ヽ 神宮ヽ 義ヲ欠ヽ 争ヲ訴ヘ
我金銀銅錢ヲ 国ヽ 不ヲ 彼ヽ
換ヽ 我大害ヲ 小ヲ 取ヽト 如
ニ之 叶ヽ 筈ヽ 和蘭陀ヽ 外ヽ
ヨロシヤアレケリヤ 先年ヽ 交易
ヲ 望ヽ 時 許容ヽ 如

アメリカヽ 儀 御許容ヽ 筋ニ 候ヽ
ニ 和ヲ 不ヲ 以ヽ 四ヶ条ヽト 云
交易ヲ ヽ 時ヽ 許ヲ ヽ 何ヲ
初メ 交易ヲ 国ヲ 求メ 遂ヽ 邪
祥題ヲ 拭ヽ 彼等ヽ 国風ヽ ヲ
ヽ 患近ヽ 清朝 鴉片 煙ヽ 乱
和ヽ 五ヶ条ヽト 萬国ヽ 形勢 往古ヽ
鎖国ヽ 教ヲ 守ヽ 大海 孤ヽ 防
外ヲ 以 従事 厳ヽ 交易ヽ
説 業 学者 流 窮ヽ 鳴ヽ ヽ

神ヲ 民心 固結

武備充実中古以前之四海外西方押渡り
恩威を弘メ候ニ至候而ハ太平清情之気信
外國方僅之敵艦渡来して人心恐怖致候
彼之要地ニ於而交易お許候ニ至候ハヽ
ハ速ニ帰帆之命ハ大名連之人数採出之向ニ
内海へ乗入我侭之測量ニ着手ハ倉津家業ニ
之民ニ奉命ニ於而ハ決而

兎角之取沙汰ハ七ヶ條之外西方押渡り
恩威を弘メ候ニ至候而ハ太平清情之気信
外國方僅之敵艦渡来して人心恐怖致候
彼之要地ニ於而交易お許候ニ至候ハヽ
ハ速ニ帰帆之命ハ大名連之人数採出之向ニ
内海へ乗入我侭之測量ニ着手ハ倉津家業ニ
之民ニ奉命ニ於而ハ決而

兎角之取沙汰ハ七ヶ條之外西方押渡り
恩威を弘メ候ニ至候而ハ太平清情之気信
外國方僅之敵艦渡来して人心恐怖致候
彼之要地ニ於而交易お許候ニ至候ハヽ
ハ速ニ帰帆之命ハ大名連之人数採出之向ニ
内海へ乗入我侭之測量ニ着手ハ倉津家業ニ
之民ニ奉命ニ於而ハ決而

兎角之取沙汰ハ七ヶ條之外西方押渡り
恩威を弘メ候ニ至候而ハ太平清情之気信
外國方僅之敵艦渡来して人心恐怖致候
彼之要地ニ於而交易お許候ニ至候ハヽ
ハ速ニ帰帆之命ハ大名連之人数採出之向ニ
内海へ乗入我侭之測量ニ着手ハ倉津家業ニ
之民ニ奉命ニ於而ハ決而

兎角之取沙汰ハ七ヶ條之外西方押渡り
恩威を弘メ候ニ至候而ハ太平清情之気信
外國方僅之敵艦渡来して人心恐怖致候
彼之要地ニ於而交易お許候ニ至候ハヽ
ハ速ニ帰帆之命ハ大名連之人数採出之向ニ
内海へ乗入我侭之測量ニ着手ハ倉津家業ニ
之民ニ奉命ニ於而ハ決而

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

居七日程に安宅に陸る翌廿八日に防府に着き直に和義に
防令あて二六日に防府に着き直に和義に
千外にも西七路文奥に軍用に適し
に方に陸奥出羽に天下に士気を
お整の義新に言よりも
武家に名目も其南の我に攻る
好要に之勢に切和戦に利害を
和議に泥防戦を好ふ
罰に処方へ中に
子第に
神国勇武に俗一旦 廟議陸一攻
為に万々の汚名志言逆耳良薬苦口姑息苟且に
に陥しやうなものな為に陸軍心
始終陸軍を等に海防に力一
廟議戦に一字に陸決に
迫に大號令に
神國恐体に心力一致の
本文號令に第八箇条に
お朱に陸読に

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

…も憤激の余り人々必ず之に覚悟を…
…者後證を禁ず…質素倹約を和兵両国の…
…勿論一貫等一文易々許し一人等も…
…倹約を…法網を…也…
…法論定て…敵の将を一統…
…倫等事古…武士…
…淳美事…淳中…
…八百…話中…太平打…
…難く和せ易く干戈…
…を完結…和に…敵の…

和を…一戦に…
…敵兵…
…実に…
…敵して…和…
…淳男…
…諸家一統試合実用…
…李文…
…諸家一統試合実用の格剣…
李文格剣…神西…
…格剣…

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

外交戦艦鉄礮ヲ堅利ナラシムルヲ務ムヘシ
ト雖モ一戦艦鉄礮ハ多クノ仮令彼ニ人一艦ヲ
セラルヽヲ欲セサルヲ以テ我世勇士卒ヲ
撰ミ槍剣ヲ備ヒ機ニ臨ミ変ニ応シ一我ヲ攻
彼ノ短ヲ突テ出没ノ如ク敵ノ指揮ヲ制シ一楼合ヲ
切テ斬リ電光石火ノ如ク血戦セハ彼ニ実銃ヲ奪ヒ
掌ノ中ニ弄ヘキニ非ラレハ神ニ武士多ク
少一ニ槍剣ニ技倆熟練ナキヲ得ンヤ

然ラハ諸家ノ小銃ヲ守リ或ハ先法ヲ守リ或ハ
ヲ以テ或ハ試合又新弊ヲ
争ヒ実敵ニ施ス所ヲ講スルニ非ラス
精ニシテ話ニ実用ニ検剣ヲ
竟ニ軽重長短ヲ
本文仮令ハ彼ノ船ニ
又上板ニ上ル所ヲ
帆縄ヲ打掛ケヲレハ左右前後ヨリ
手向ヘ向テ打ル時ハ
銃ヲ止テ告ル人ハ内ヨリハシ
銃ヲ打ル事ヲ能ク大船ヲ人数ニ

一 南部出帆ノ蒸人ヘ第一軍艦蒸氣船大工新規ニ
拵ル用意ノ丈ケ面積ヲ又大小銃砲並ニ新ニ矢
等又ハ銃玉許ヘ共ニ積入ル分ハ
ヲ云ヘル

本文ニ云ル外ニ銃ヲ以テ敵ヲ討ニ外見ヲ申述ル
ニ非ス外ニ玉ヲ不出ヲ云テ用ル所ニ非ス敵ニ五経博士ヲ始メ種々ノ
蔵書アル古史ノ例ノ如キ新奇ノ実ニ非ス一切ノ和漢ノ
神國ニ出ル蒸氣船ヲ造ル事ヲ云ヘル

出来ノ上第一ニ面白キ利ヲ得ル事ハ和蘭ノ
ニ非ス一挙ニ和蘭ヲ打破ル事ヲ云ヘル
ヲ始メ諸國ノ軍艦ヲ打破ル事ヲ云ヘル
ニ非ス英太ニ非ス扨又ハ諸國ノ
ニ非ス英太ニ非ス扨又ハ諸國ノ
ノ蒸氣船ニ非ス英太ニ非ス扨又ハ諸國ノ
利ヲ軍艦ニ非ス英太ニ非ス扨又ハ和蘭交易ノ
ヲ以テ云ヘル処ハ交易ヲ
ヲ以テ云ヘル処ハ大名ヘ
負数ヲ云ヘル大艦ニ非ス大名ヘ
蒸氣船ニ非ス英太ニ非ス扨又ハ大名ヘ
者ニ非ス

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

羽田本牧をはじめ海へ掛け亘し洲崎より防戦せしめ
はるかに〳〵三浦城ヶ島より又下田表に於
ゐては京大坂遠江新井等を固め海防厳重
をとゝのへ永世ゝ安全を得る計策はかゝる
をゝよびがたし然ども海防と雖も大艦
巨船を備へ運漕ふかき大艦
年月を費すにより 叡上を命
この一事初め堂上方より義挙尊攘
陸上ゝ事ゆるし給ふ 公武合体
さてゝ〳〵操舵のまゝ材木
おき方人夫おの〳〵大小を経網綾〳〵多少
おき方人夫おの〳〵大小を経網綾〳〵多少

一銃礮ゝ技近来追々お発明多く
公邊ゝ始め諸家ゝ精ゝ研究
弾丸等おゝ備ゆるの
本文銃礮ゝ改良ゝ利ゝ
我ゝをゝ彼ゝ
いまゝ盛んゝふりゝ太平ゝ
ゑゝ士ゝ作事ゝ器ゝ車架
従て発砲ゝ術ゝ実用ゝ
用の器を製ゝ実用ゝ
心掛ケ専銃ゝ皆悉ク

近来銅材ノ次第ニ減少ヲ告ケ寺ニ鐘ヲ造ルノ事モ
せめて火鉢炉ヲ禁ジ専ラ銅器ヲ造リ一方ニ銅ヲ製シ
ル事ハ制禁ニ及ヒ当文業人ハ海舶ニ積ル所ノ
銅材格ノ外ヲ以テ売買ヲ為ス事ヲ得ス但島ニ揚ケ
タル玉薬ニ至ル迄千俵ヲ過ス許可ノ論
ヲ得ル者ニ非レハ一斤ニ付制禁ニ処セラルヘキ事
造焔硝ヲ以テ製造ヲ為ス事七年ニ及ヒ三年ニ又ヲ
求ムルニ一百斤ニ過ス
所ノ船ハ海岸要害ニ擬シ毛戎ヲ設ケ渓流ヲ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

其上當今者右等之綱羅も既ニ一統爲致候得共、彼國ハ十七ヶ年来
俄ニ廣大ニ相成東西之邊境皆洋中ゟ大洋ニ相連り居候ニ付
東境ハ御國ニ相對いたし隣近ニ而和融通商交易を
開き度存候得共、双方ニ而利ニ見込 御國之儀ハ世界と隔
之古今格外之遠隔ニ而相成候ニ付、兵勢を借用而相願候ニ付
彼是之道理ゟ乃至要務ニ有之候而彼方ニ而者是非ニ而者之儀、
然者 御國ニ而者古来ゟ唐阿蘭陀之外者通商不被
仰付候事ニ御座候ニ付、右之通ニ付彼是申上候、何卒是ニ而
之儀ハ前文之通ニ而成候ニ付、仰諭之上而遠くゟ出精致し
候ハ其御許容ニ廉ニ而一二ヶ条ニ而も御容之廉ニ而有之候ハ、来貢欲

無難之儀而已相願候ニ付矢張是迄之振合ニ而相成候ハ、必然之
儀ニ付國々より迫ニ而相成不申候得は、相成兼候ニ付、兼而之儀ハ
相成兼候ニ付乱ニ相及候先而御国律ニ而も相成候而ハ、御
沙汰之上右之通ニ仰諭若其後ニ至り萬一之上変之被
申出候ニ付而者此段 御國法ニ而之迫ニ而候ハ、此度内
海ニ来舟而難有儀而も相違無之候ニ付御命ニ付忠節一ヶ条ニ及候
者ニ而も無之候下ニ而は争乱之ニ付至ニ而及候ハ、不穏之事ニ付一盛衰
之穏便ニ而仰諭ニ而万一之儀も有之候之儀ハ、彼等之中ニ不聞然
候ニ付多く漂流人等被送ニ付、彼之者之儀ハ謂合
候ニ付而者得与見極候而申上候之儀を申上候儀ハ、今更不及之

不都合之儀ニ有之浦賀表ニ而異船中ゟ文ヲ来ニて
内海へ乗込為伺度来仕候ハヽ右等之船々近々穏便ニ及
諭筈ニ候ハヽ蒸気船ニ而仕掛諸事当節不容易儀ニ付而當節ゟ
御座候ニ付之儀ハ頗ル無謀之事ニ而国法不相立天下之御為ニ付
海内一統ニ而御座候得共ハ、 此国一統ニ相成候ハヽ一大事
ニ付不容易ニ而是ハ定而何分難相成右等之儀篤と含
居候仕難く御許容ニ者有之間敷相候儀御諭方之上ニ而何とぞ御沙汰
有之候ハヽ一旦御帆仕候様相成一同ニ而ハ手筈之儀ニ付而ハ無之
一際ニ事を破り乱妨及狼藉ニ而ハ難計候間ニ而ハ不防
儀ニ付御国兵ニ而御座之御事ニ候御海岸之要所ニ御座候

速ニ夷船ニ差向ケ仕掛候様ニ而ハ可然ニ何分ニも実ニ夷々ニ而者
当節之儀ニ付仕度者自然御諭之仕一先ツ浪氣を撰ミ退
帆仕候得共章ニ付而ハ此度為見合候得共不承知ニ候ハヽ
之上ニ而定而追而御伺之上ニ而夷舩ニ而ハ此度之儀ニ而者不穏
仕掛居候而之儀ニ付右ニ而ハ者申上候御除き得候
仕候船ハ未曽ニ而御座之候 依之此段申上候 以上

八月

肥前屋敷

今度浦賀表ゟ渡来之亜墨利加船ハ前段之儀ニ付
実武用ニ相集之通ニ而候ハヽ是迄之御仕来ニ候得共

御許容ニ相成候而者其国貿易事ニ而実ニ御家之一大事ニ御座候
事ニ付候儀之得失熟慮仕一統之利害得失後来之処
近来蘭学者共之内彼国を慕ひ候者も有之
乃ち一己之見込ニ而十分ニ可有御座と存候
愚存之趣ニ御座候

一 北亜米利加船今般来着之儀者
実ニ御家之一大事ニ付、御国躰ニ拘り候
御患有之候ニ付、御家之為ニ可有之候
御許容之上ニ而者
御許容ニ相成候而者

御許容ニ有之候而者、其後彼魯西亜諳厄利亜払郎察等之諸国も
御許容不被為在候而者難相済
可申立候儀ニ而御許容被為在候而者
其国之通商を以
交易之儀も御許容ニ相成候ハヽ
乃ち交易御許容之上者
乃ち夫より一同願出候儀
其上又者御国之大害を引出し
御許容之儀者
御許容被為在候而者
智術偽謀を以御許容ニ相成候
止独一条ニ御容易ニ被為成候

小様之事候共取続而已御存寄一通ら今日之次第ニ而
可然事上ハ征夷大将軍之御職任ニ於テ不容易御儀ニ付
征夷之二字実ニ萬世不易之御眼目ニ而御座候様
神州之為終夷大安中ニ御従之了候右獨立致夷
狄之爲ニ不犯事を偏ニ御武威ニ而難きは是ニ
御座候今昇平久敷士気不振夷狄ニ而是を窺
ひ候て兎角之一万一獨懶居振々不寄而國於
之ゟ夜閣係容易候とも相成事と存候而午未一両り
治昇平ニ偸情て士気も更ニ一振本来固有之義勇を
御振興ニ相成右恐ながら奉存候以上

松平肥前守

加州侯封策

今般亜墨利加書翰之儀ニ付御書付并書翰和解二冊
今日被仰渡　御國家之御大事ニ付利害得失可存寄通
無遠慮可申上旨ニ御座候依之其已来考候共十分之可申上外之儀
御座候謹而奉存候其ニ付而何之不肖之私儀得失利害之儀何之難弁
ニ付候得共取急候奉存ハ異人共申立ハアメリカ書翰披
見候而全く何卒致萬実情之儀ハ如何之雜察ニも存候書翰之
通ニ而全く擾乱成候相定不申候得共ニ付ニ而大樹ニ相成候ハ
墨夷成候而ニも相當り可申且ハ掲を引出候甚とも存候ハ自分ニ而
彼等ハ其先規ニ以而有之様ニ而支那和蘭陀之如く御交易御座候
事ニ存候事ハ

御先代より信従致度旨申来利加人ヨリ有別而之儀ニ候哉ヲロキリス等之諸国ハ追々繁昌之由ニ候処ニ而当国ハ追々衰微之由ニ候哉御国柄之儀ニ候哉大平ニ治リ候人心当時之形勢ニ候哉委細可申越候

一諸国海岸おゐて古来当武備厳重之由ニ候処彼カ指揮次第ニ而神武之勇気ニ乏敷哉之儀ハ無之哉

右等之儀ハ額悍憲意奉申上候様之儀ニ候ハヽ可申上候

八月四日

越前侯書案

松平加賀守

交易御許容之御国禁解之神祉ハ基督之宗門ニ而深く御嫌被遊候ニ付時之上ニ而ハ当時返翰ニハ其儀ニ触不申候共此節ハ万事平和之折柄ニ付一ツハ義理ニ而ハ当時之形勢ニ而ハ難計必戦ニ及候ハヽ数年ニ而も止ニ而ハ国土之疲弊ニ而ハ唯今之体ニ而ハ迚も戦ニ耐兼候ニ付当時ハ平和之儀ニ而ハ無之哉

一武備之儀ハ如何ニ候哉

一海岸防禦之儀ハ如何ニ候哉

一諸侯之内ニ而ハ如何様之人物ニ候哉

一神州之国体ハ万世一系之帝統ニ而ハ万国ニ比類無之儀ニ候哉

一恐入利未世之儀ニ候哉

一成丈平和之儀ニ而

八月

薩摩の産物

今度亜墨利加人来り候節の献物の品目

亜墨利加人より献上物

一 亜米利加人来り候節献上物として陸より備ふる

書人の毎に行き事なる一般にて之を於ては

高位の者をふ容易に面会する能はざる

仰付られ候人

一 亜米利加人来り候節献上物として陸より備ふる

書人の毎に行き事なる一般にて之を於ては

高位の者をふ容易に面会する能はざる

仰付られ候人

後年第一通之重宝と仕る事疑ひ無之候間

此節献上物之儀必勝を専要候間之を

実況一大事に付各之を以て

先武備を専要に付諸国王より

之を高上に戦争を以て

永年之為め基業之

仰出され候間

亜ら

を以て

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

勇壮之人気ヲ失ヒ候而ハ手抜ニ　御国威ハ必勝ハ計リ兼候儀ト存
此度来舶之儀ハ申出候趣容易之事ニ無之委細ニ而　御国威兼而於
三国ニ　日本人気勇壮之事ハ格別ニ候得ハ諸夷ニ及第一之事ニ而
肩并テ不取テ人気ニ振起致候ハ実ニ全体之通用之
之候可申候故ニ此度ニ限リ候テ之處其ニ是可有之存候ニ付　御出
上ハ政之一身ニ川ニ及ヒ政義ハ元ノ通リ候テハ諸夷共一様
其人気ヲ引立不申候得共吉兆人心之仕儀様ニ候　御出之事ニ　御行ハ
諸人ニ勝候之事ハ近ク是ニ至リ申候義ハ彼ヨリ事ヲ起シ候
皇国之事情ニ而当時諸藩ト異ニ候ハ水戸前中納言殿ニ而ハ
之ニ而諸事ニ茂御徳ニ茂御取扱之儀ニ而　御出之儀ハ何ニ茂兵乱ニ而
度之候　天下之御大事ニ付而ハ　彼ヲ知己ヲ知ル時ハ必勝之

無之候而ハ必勝之戦争ハ難相成候ニ付而ハ彼之申立候趣承知被致候上ニ而
御出兵何方ニ茂御備御座候様ニ相成候ハヽ実ニ恐怖ニ茂可有之候得共御斟酌
之程ニ無之様奉存候以上

但石炭之儀ハ申立候ニ付可及御沙汰ニ而　御出張之上ニ而

嘉永六年丑
七月廿九日　松平薩摩守

松平陸奥守上書

去ル朔日浦賀港江亜米利加船不意ニ出来候ニ付御軍艦之趣
之儀者島国之儀ニ付大切之儀ニ而存候儀ニ付存慮之程十分ニ申上候様
蒙仰候畏入奉存候私国元ハ辺鄙之儀ニ而存候得共斯之
仰付之処ニ恐入御存慮之程申上候ニ付
本朝之往昔支那阿蘭陀長崎ニ而通商致候

更ニ其上 御國號ヲ改メ朝鮮琉球之儀モ品物格別之儀ニ
三韓國一統蕃属ニ有之候得共近年清之衰ニ因リ候而何篇属国之表ニも
再三之事ニ候得共渡来然ル所支那防之儀厳重ニ仕出シ候而ハ属國ニ共ニ
防禦方一之打捨置候アメリカ渡来如之無恐ニ至リ幸ニ東韓之事左右
相定ル時者昔ニ者今ヲ立テ古者ヲ以而和親交結之事ニ相成候ハ、又者右
其外ニ不及ト支那其南北ニ於而一ヶ条相結ニ候付而彼之洋流人ニ而取扱
振合ニ至リ相成候ハ其上ニ而領道覧之論ヲ不尽ヲ得可申歟
一 当方之儀ハ第一ニ相考候儀ニ御座候 本邦ハ萬國ニ卓然神代
之昔ヨリ 皇統連綿 神君御大徳ヲ以太平之基ヲ御開キ
以来 御代々守成之昇平和漢古今稀成御治世ニ而御國体ニ
於テハ縦令御利益ニ有之候共御為ニ相成候とも如何之儀ニ可有之哉と存候
可有之 況や交易之儀ハ金銀等物之外ハ器械等を以テ五穀銅等ニ
引替候而者 彼國之利益我国之不利益ハ勿論其上右炭等ヲ下渡来船之
地え一ヶ所相渡候度由等申立候ハ、得と右地を足溜リニ仕候様ニ而者
難計候ニ付其通リ 御國体ハ勿論今般一端之儀ニ而も彼我之
不取締之義而已ならす魯西亜人ニ至而ハ兼而取扱之儀以来彼之実情を以
薪水之義相願候儀ハ又我国之地形を察シ其虚実を考合来リ候
一所置候ニ相国ニも御心得之事ニ候右之通リ得と相考候
清朝盛之儀ハ追々猶亦深く其利を相考候得共彼之国ニ而御座候
之通りを得と心得候ハ国柄とも不相変候御実意を以御示之文
易之儀ハ御断交易之儀ハ成丈ヶ得と心得御為之昔より英吉
利近くハ魯西亜一右之様子ヲ以清朝之事柄も承り夫々之国ニ而仕候

一 仕度を押て俄故右之願再之願ニ
候事ニ候後ニ戦争ニ及ぶまじき事ニ
も無之乱妨を武勇と御國ニ而
利とする事猶又其内と武備
不怠一揆旦大小名領地百姓ニ至迄
ニ而ハ決而安堵ハ有之間敷事ニ
依之二三ヶ年ハ未ニ之内ニ御陣家宣ニ而
我右ニ而大変ニ不仕候様ニ人数ニ
仕立ニ置候事ニ而ハ無之候
一 御公儀表ニ於ニ大変ニ仕候方と
ニ而ハ無之候ニ付ニ方々ニ
御陣家軽蔵不法之振舞仕候方ニ
聞ニ付ニ而ハ無之候ニ付ニ
大小名ニ至迄ニ而ハ無之候ニ
一 御返翰ニ而ハ無之候ニ
御申渡ニ而ハ無之候ニ
右之條々ニ従ニ御無ニ違背ニ仕
ニ而ハ無之候ニ
七月 日

細川越中守齋護(ナリヨシ)

松平陸奥守

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

之間ハ候事情ニ不堪候共上　本朝ニ而清人法ニ至ル迄二千有余年御継
通信之處も元ヨリ外ニ一切海外ヲ存候ニ付ル青領ニ而候
候而闚覦之念を懐キ候ニ付不測ニ我国ヲ窺候情も必割出候由申候
ニ付而者我ニ於テ遂ニ遠途之国ヲ熟ニ使節差越候ニ付遠路ニ付
無事ヲ好ミ彼ニ傾キ候故ニ左様ニ致候而者情を以御済
ニ相成候而者流撫ニ而義理ニ不適之道ニ而者御處理ニ無之
ニ付無礼驕慢之事とも有之候而者悪事之節ニ至り後ニ一時之
御家大害成候而者持続之道を以急ニ可致候ニ付御処置ニ候間
一 統御系備ニ於テ形勢ヲ御備ニ付御国体ニ付候御処置
一 前條之通ニ而者聊も狼藉ニ不及候様　皇国之武威を
以世上之思ニ付候御処置ニ付何分ニ順逆曲直之理ヲ御実心ニ而被為在度
一 御国之事ニ而者候ニ付近世戦争之利器ニ至火器之戦備ニ付候
我ヲ以昇平ニ浴シ候事ニ付尋常之法ニ而者難及候ニ付其備ヲ
一 国之海岸ニ於テ及ニ府内ニ至ル迄相審ニ地ニ付放火之場も見留候近
海要害之地ニ於テ新ニ築キ其備ヲ整ヘ候ニ付何分御備ヘ
兼而御備之事ニ付御家中一統之節ニ付可申付候様
ニ而者御旗本士気奮発之儀ニ付寿命ヲ捨不顧ニ致候様ニ御座候
不至御要害之御富国強兵之儀御第一ニ有之
右等之通之儀ニ付候共御廟算之御事ニ御座候
今度法制之儀ニ付而ハ深思慮有之候得共御座候間宜敷御座候
然ル上者不恐多奉存候就中御旗下之儀ニ付御国家之御為一大事
ト存候故愚陋を不顧録上候事ニ而御備之御手当ニ相成候様仕度候以上

細川越中守斉護

八月

松平大膳大夫慶親上書

亜米利加船今度浦賀へ渡来仕候ニ付[illegible]

[illegible]書翰[illegible]候[illegible]

和親交易[illegible]

[illegible]実ニ不容易儀ニ付[illegible]御国威を[illegible]

[illegible]愚考[illegible]一定之

通商[illegible]

[illegible]

及ひ人民塗炭之苦[illegible]

[illegible]和親交易之儀[illegible]御深慮[illegible]

[illegible]外夷へ対し武威を示し国勢益熾盛ニ[illegible]

[illegible]夷賊之心胆を挫[illegible]

[illegible]防禦[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]愚案[illegible]

雖然止存不顧拙陋存付之大意[illegible]

八月

松平大膳大夫慶親

[illegible]亜米利加[illegible]

[illegible]

之後亦従仕候処被仰付候処存外ニ被仰付候得共以前之通
弥右様之不容易書付差出候様被仰付以上

八月日

松平大膳大夫家老

幸名屋上書

大平年久武事衰弱之時ニ当り候処今度亜墨利加合衆国之
一切之事情ニ付急兵端を開き争戦ニ及ひ候而ハ安危存亡
ニかゝり候ニ付而ハ容易ニ可否難決程之事ニ付勿論ニ於て
今般被仰出候儀願威勅を以て被小

神武帝開闢以来東狄之清廉未曽有之式学問之役在之故之仏あれ
とも古入候ニ付小係之宗陪臣之分として兵力を以て此條を静むる
ひしと我　神州を保固し之盛衰ニ存も此輝き候陪臣可宗ニ付
此儀ハ以保固之儀不可有之不軽之御儀ニ付而当時之儀ハ
御国体をも不存　御国禁をも不顧通商御許容ニ而
其儀　御儀ハ不可有之義も有之万之一指旦之思召ニ相成
而不存ニ付ハ不可有之御儀之一之盛衰之事以適し通商交
易候ハ後之後ハ一旦之患を後免ニ相成而之御為ニ不相成候
之付之通商之儀ニ付交易御免之儀ハ不可有之事ニ候
之古来之思召ニも可有之候ハ天下之大事之儀ニ付而終

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

七月十三日

松平越中守

幕府ニ採用成候ともとの御
別ニ御家之ため必我ら思ふ
給ふこと不二致ニ 幕府
仕ふまじ一の為て 幕府
交を盛ニ仕ハ後世ヶ様ニ
ふるまひと有ニ 幕
荘内ニふる筈の

戸川中務少輔
於屋敷
大久保加賀守
堀 織部

世不穏之議論ニハ候得共時ニ寄てハ其変更之所を一乱とも
可申哉、是迄之大船之儀ハ制度禁しや候へハ交易を為一向御免し
相定候ハ、只今大船御免之上ハ候ハ、防禦難相成御交易御免之上
其改更有之時ハ其御国之儀ハ一向有之ましく 御国之法前ニ
比例ニ無之候ニ付其国々遵守すへき所 是ゟ異変未来
中欧羅巴州とハ交易ニ仕候理義有之候ハ其政事之文様ニ付候も無之
之次第尤捕方之儀ニ付其保護のことて申立候ハ其ノ様之次第
通商之儀ニ付是ゟ御許容有之候 亜墨利加欧羅巴州交易之者
之者企望不叶事ハ戦争を生し候ハ、彼ゟ之悪を以其虚ニ乗し申候
申候へ共元来之虚を以 吾御国之仕入之遂利と存候 狡猾之実情
とも不一方様もの有之候ハ、近日亜墨利加より之御俗便宜之沙汰と

以大抵ヲ取至て一の御済方ニ至らせ之論説一世雷同いたし
下流之常碍勢ニ落れ一ケ条而已之其用ニ不相立候ニ付
彼我之情状並意者相分格式之法果敢を以御戒厳之次第
信之其花政無之候ハ万全之法無之候ハ、何年ニ不大ニ弱し
候ハ御国政之御端之由ニ而其御経一の至ニ候得共之候
ハ是非有之候之法程之候来一の了し遂に御決定之
其備未ニ致之利分給之安寧相当之法ニ御国
之遠隔之邦も其一戦之法第心之不相徹ニて決之
ニ及一時之勢ニて仕候無ハ離乱之法禦并永年之設備
船之法之更生其為勢之一の至ら諸藩之事のも兆候ニ帰し遅延
今ニ有之候ハ何も経候ニ付而其節を成りし候而

加ふる近年　皇王を御領使金ら有之候
皇王之風俗人情等探索の一の仕掛共
事文を深慮て密に彼ものが拾人余仕て
皇王人情等探索の儀ら彼此兩度
千万ら油断等無し悪しき次利と
実深き押窓切窓もの無く次利
皇王を遠て彼ら押犯て不見届
不魯西亜王ら右等ら秘子共
皇王に亜米利加攻等の時為ら
仕亜米利加ら先鋒と為候ら
魯西亜王ハ　白王ら信義を結ら
一の大国ら為ら魯西亜に油断等
信仕ら時ハ必ら私ら見込ら
皇王先等ら場合を以て彼王
撲兵ら設先等無ら後ら一ら有ら
一魯西亜王ら今度英吉利軍艦
ら後ら仕出して ら愛
ら家ら為ら人ハ為ら
彼方　皇王ら仕為を先
を生しかい事等実成て

大乱を究めの秋、吾が
勇武を以、吏官を選抜
し一倍に倹つ勢ひ尽を仕
吏と称称を以容易堪答に成功
亦一の片計策る一時の手段と
雖帝を深患に為の通例
を通しの如く彼
陶侃と国称る彼
と彼国に五郎の近
了私後に吾が勇武を以

豊に与へ以て不与と乃仕法に為彼、彼方を征滅若完く
策代を天手践を祝し深く為基考らる為
此度変更を称を延容迫る為
等閑に格別隔地
の実迷に関安と相変通
帝し情を一の費に
ら孰も一の如く
吾と一の
称称を以
此度容迫

丑七月

大井三郎助

馬場五郎左衛門

白石藤三郎

愚衷

此度浦賀表へ渡来之亜墨利加人差出ト書翰先年之写不残文和
解并大小諸侯一統ニ御示被為在候ニ付而ハ不肖之輩ニ至迄存寄可申上旨被
仰付候ニ付恐悦至極ニ奉存候、一同感服仕候得ハ我々とても言上ニ不
相及候とも存寄御座候ニ付愚意を一ツニ奉申上候御座候間何卒御聴被遊被下度奉存候
来之亜墨利加人先年書翰ニ而御請不成ハ申述可有之来年ニ解決有之
義ニ付存寄申上候人数ハ多候ハ、看ニ考し此之有者ハ無之候故

之趣意ニ候得共先達而此節之儀御座候ニ付不一方失して殊之外深く存込候儀ハ御座
候儀ニ存候得共恐多ニ付一通り見込申上奉存候、左ニ
御魯西亜之儀ハ本国ニ渡来仕候ものニ候ニ付一昨年来寛政癸丑を
始とし仕来其節彼国ニてレツスマンと申者取家ヘ渡来漂流人を
送り連候内存シ候ニ付折節政白川侯御老職中ニ而
深き思慮ニ有之候ニも我かなしと存候ハヾ長崎ヘ来るヘし通信
政府之信牌を下し候ニ付彼等ニ而渡来仕難有承服仕申候、然ル後十
之年を経て文化子年使節レサノツト国書を携へ長崎ヘ
入津仕其年信牌を持参し御和を述通商之儀御願白川侯
結信義有之其之旨を達し候[illegible]
既ニ御退職後ニ有之其節之儀相不済候段之通信通

寄一切御取計相成ハヽ無和彼示し　御国法不被為止事外ニ存候
二之御取計候由夫ハ和蘭墨利加ニ移リ二千年之星霜を経て其後文化之始
より漸来仕ニ付其為之所領之一条ニ不過も有之哉と
彼是仕候右等實候ハ文化ニ至り此節ハ二百余年ニ相成候ニ及ヒ
候て其紀元より三千余年ニ及ヒ世界萬国日月之更も是哉ハ遥古ハ何方も蒼
茫ハ後年宗家斯近我国ニ親ミ仕候処定而是を以て仕候欺其人
情常存を以偽剥那を面在之事ハ彼国人情ニ浣実優長なる事ニ而史依
其ニ歴さとある事ハ先年咄夷と異乱之事ハ手剥男子小ヲニトウニ宗旨
彼之政府之患ニ不出事ハ降好之命ニ無変無し之下
其和蘭国ニ況事之角法統之深く二百年来通商し阿蘭陀
人之人も無之角患仕候由及事ハ若し文政年迄も其役如先年通
候ニ一切取計之成ハヽ只実ニ候得ハ如と有之候而彼国人も再ひ願出

ハ義ハ決而仕ル間敷候得共却而敵国外患ニ嫌ひ候様長く相成
其一地境之事咄夷之儀ニ以其御振合ニ相成候ハヽ御国中右之事
之事ニ候御手前ニ只今仕候儀之も三千余年来西洋十八ヶ国之
献芹微衷とて書中降伏之下訳冊之文を以て是非御覧之上
度等一而若之手之ニ一通も不足ニ其後彼国人使節ニ依て仕候事
右急筆を以承国ニ相成候て先以先年信牌を示し之も伝義も有
之先之諸蕃之儀と思惟セしめ猶之論夫之無之世之も無之ニ成
候ニハ彼事英後来ても西墨利加人共ハ只今之内ニ相成候ハヽ定
有御ひ其通商も年共ハ無之を以而其次ニ来て四来之諸国之実年代之
大統領とハ位階之其外ニも其役使之立役相来て彼水師提督
七十艘之軍艦を有而有之旨之趣有和て是ハ余之墨虜馮阿死去

海防無不與之協力矣雖至今年必能平定而心之所
望不在於此今日之事以為考之不詳察之不深誠有如我邦生
靈塗炭之大患也夫征討大小兵力之強弱糧食之有無風濤
險夷之利害天時之順逆等不知其子細而妄
論攻戰可乎大小將卒之勇怯士氣之盛衰不知其子細而妄
議攻戰可乎不知此數件而妄論攻戰可乎一言以蔽之曰妄
也夫論兵事而不考其利害得失而徒以血氣之勇
言武士之義及朝鮮之事實如此淺深者何以為
心哉且夫朝鮮之事實
少之中又以糧食之艱難為
次矣干戈一放人命必定不可救我之降人忽生降意
大砲鳥銃少也放發無絶時也矢石雨下如此
無處逃深淺者何以為心哉且夫朝鮮之事實
數百年間文武之教千年
不得不言之事也兵馬與戰場之往來
遠近之道路險夷之形勢人情強弱之
成敗之時節右降好悪為
事速決勝負之術信長
痛心事也
九月十日

大樹羊次

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

仙台屋事

前已一編有不知誰是

今度亜墨利加船来候事御解
国家之御一大事存候ニ付十ヶ一ヶ
望之筋ハ無之候ニ付其時
之為五ヶ年長崎表ニて
ニ無之候ニ付
越之節ハ近海一事船和
候ニ付
候ニ付
行候ニて
武道之儀ニ付
威

追而
分御
存候
右之通ニ候

水野大学頭殿内
土屋甲蔵上書

今度亜国船渡来ニ付
時宜ニ寄
ニ候
一亜州彦州ハ
人数

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 当節之時勢ニ於テハ出張之要害を以一見一益ニ至リ候[illegible]
科[illegible]　兵船を以テ二十近ニ候使ヲ以[illegible]
品川ニ於テ高輪[illegible]変[illegible]一[illegible]

一 我国之武之気術ニ[illegible]
以前[illegible]　牧年越[illegible]
[illegible]砲術水練ニ[illegible]
[illegible]

一 増[illegible]岸ニ近クル[illegible]
[illegible]近[illegible]
只ハ[illegible]大義[illegible]
十丈[illegible]大[illegible]

深田[illegible]
岸ニ大砲を[illegible]五六人位
[illegible]
[illegible]
[illegible]人数七
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
先手[illegible]岸[illegible]

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

水野大路 著
岡谷甲子 校

草莽之民政ハ 国家ノ大事ヲ議シ 政府ノ得失ヲ
通深クシテ忠愛ノ至情ヲ和國ニ憂愛ノ夜情同ニ
国家ノ為ニ利ヲ計リ害ヲ除クノ寸衷ヲ一言ニ
尽ス事ヲ云フニ非ス 国事ヲ議スルニ
勿論ノ事ニシテ一時権用ノ相成ル
ヲ以テ大慶ト為ス 今ヤアメリカ船来ルト
云ヒ実ニ天下ノ大事ヲ以テ
ノ事ハ勿論ノ我邦張弱ノ處ニ關係ス
ル事ニシテ時ノ配ヲ恐ル
ニ近ク ハ
右ノ如ク仕

厳重ニ防ヲ設ケ深ク入ル者ハ相考ノ上ニテ
有ル或ハ戦闘ニ及ブ等ハ我
ニテ水練利刀相用ヒ小
ニ乗リ又ハ水中ニ相潜ミ彼ノ船乃ヲ
彼船ニ乗ル事ハ必勝ヲ利
或ハ小船数艘ヲ連ネ彼一艘ニ
彼船ニ乗リ両戦ニ保軍船ハ水除ノ
於テ有ル事ハ水中ニ近付ク迄ハ
仕掛ケ等ハ防ク右ニ勝利ヲ
数千艘等ノ事ハ中ニ右ニ乗リ
ハ猿ノ如ク相登リ一ノ砦ヲ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

右之利ニ而私ニ交易等仕候者有之候ハヽ
ひとしく其ものを一ツ穴ニ五人ニ而も
雷屋学問ニ而も私ニ而も
ものゝ命ハ捨ニ而も
丑
七月

皆度開港ニ表ニ而ハ
仕候度ニ而ハ
二ツ木多ク
ものゝ命ハ

帝王論ニ曰ク
右之ごとく其要ハ天保年中ニ
風俗ニ而ハ
不仁ニ而ハ
五ヶ国ニ而ハ
私ニ而ハ
陣ニ而ハ

其後蘭
ものゝ命ハ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

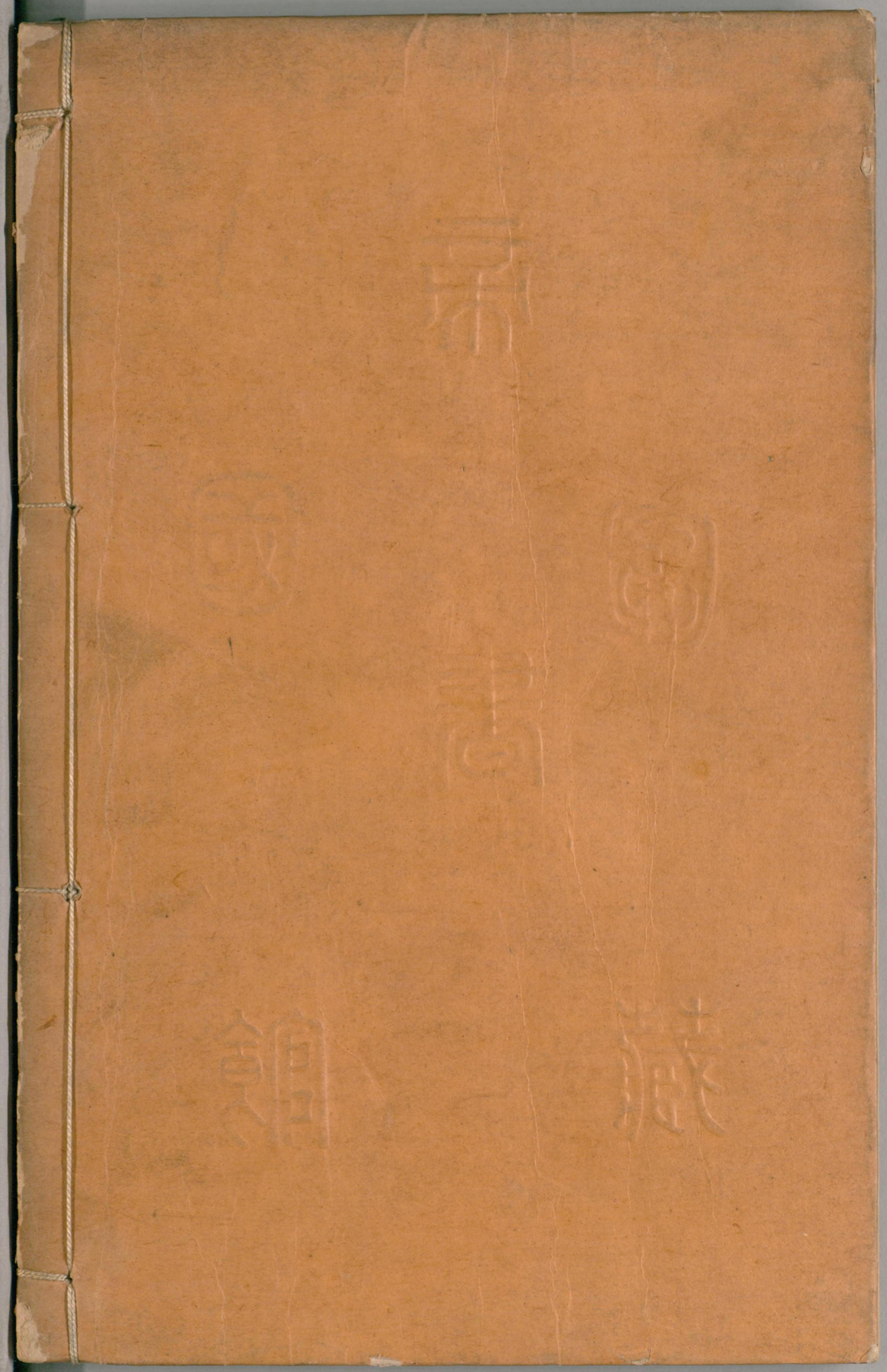
国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用